

2020 年度入試状況分析【国公立大】

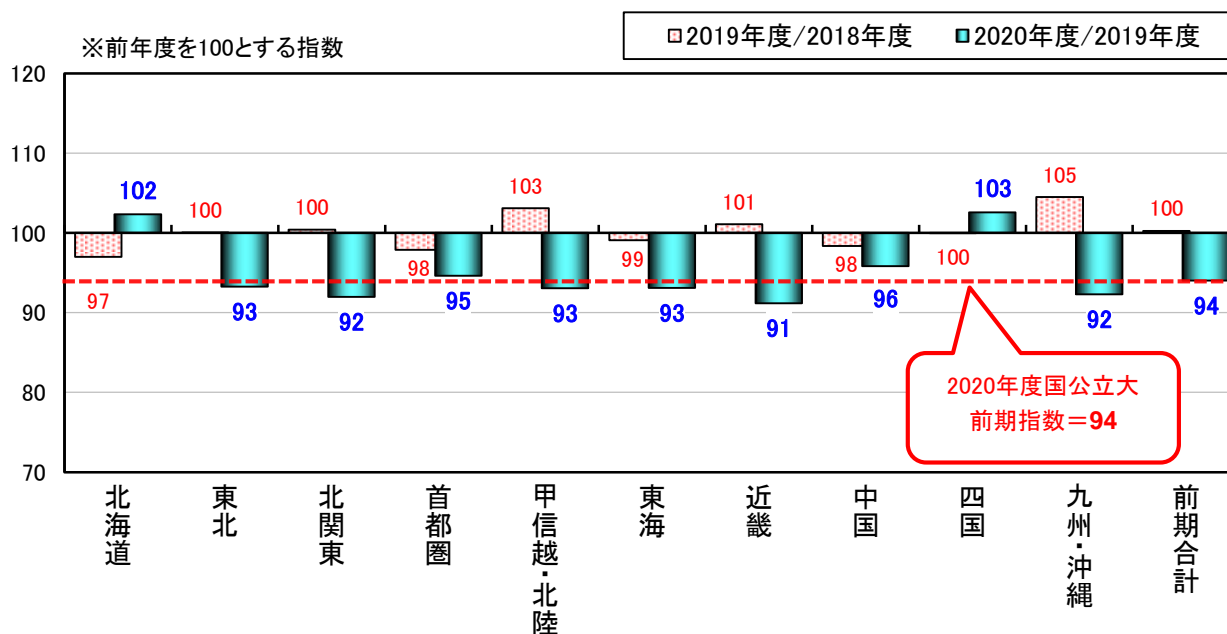
※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎地区別志願状況

□四国は前期・後期とも増加、他に増加した地区は北海道の前期のみ

[地区別志願者指数]

<前期日程>



○北海道(102)…………… 2019年4月より公立大へ移管となった公立千歳科学技術大を除いた12大学中7大学が減少。この公立千歳科学技術大を除いても(101)の微増。志願者数では、室蘭工業大(+393人)、釧路公立大(+270人)の増加数が大きく、北海道大(-369人)の減少数が大きかった。また指数では、釧路公立大(166)、室蘭工業大(149)、帯広畜産大(121)などが大幅増加。一方で、旭川医科大(76)、小樽商科大(84)などが大幅減少。

○東北(93)…………… 17大学中12大学が減少。志願者数では、増加数が大きかった大学はなく、東北大(-429人)、弘前大(-298人)、岩手県立大(-280人)、福島大(-252人)、福島県立医科大(-205人)の減少数の多さが目立った。また指数でも、増加が目立った大学はなく、福島県立医科大(65)、岩手県立大(70)などの大幅減少、福島大(87)、弘前大(88)、東北大(91)の減少が目立った。

○北関東(92)…………… 10大学中8大学が減少。志願者数では、高崎経済大(+219人)の増加数が大きく、筑波大(-574人)、宇都宮大(-222人)、茨城大(-209人)の減少数が大きかった。また指数では、高崎経済大(112)は前年度5年ぶりに減少した反動で増加。一方で、宇都宮大(86)、筑波大(88)、茨城大(91)、群馬大(91)は減少。

○首都圏(95)…………… 19大学中15大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、東京都立大(-551人)、横浜市立大(-540人)、東京工業大(-432人)、埼玉大(-307人)、東京大(-224人)の減少数が大きかった。また指数では、増加した大学では、東京医科歯科大(106)が最も大きかった。一方で、横浜市立大(79)は大幅減少。お茶の水女子大(88)、東京農工大(89)、東京工業大(90)、東京都立大(90)、埼玉大(91)などは減少。

○甲信越・北陸(93)…………… 22大学中、増加・減少とも各11大学だが、減少数の大きかった大学が多かったことで地区全体では減少。志願者数では、公立諏訪東京理科大(+689人)の増加数が目立ち、

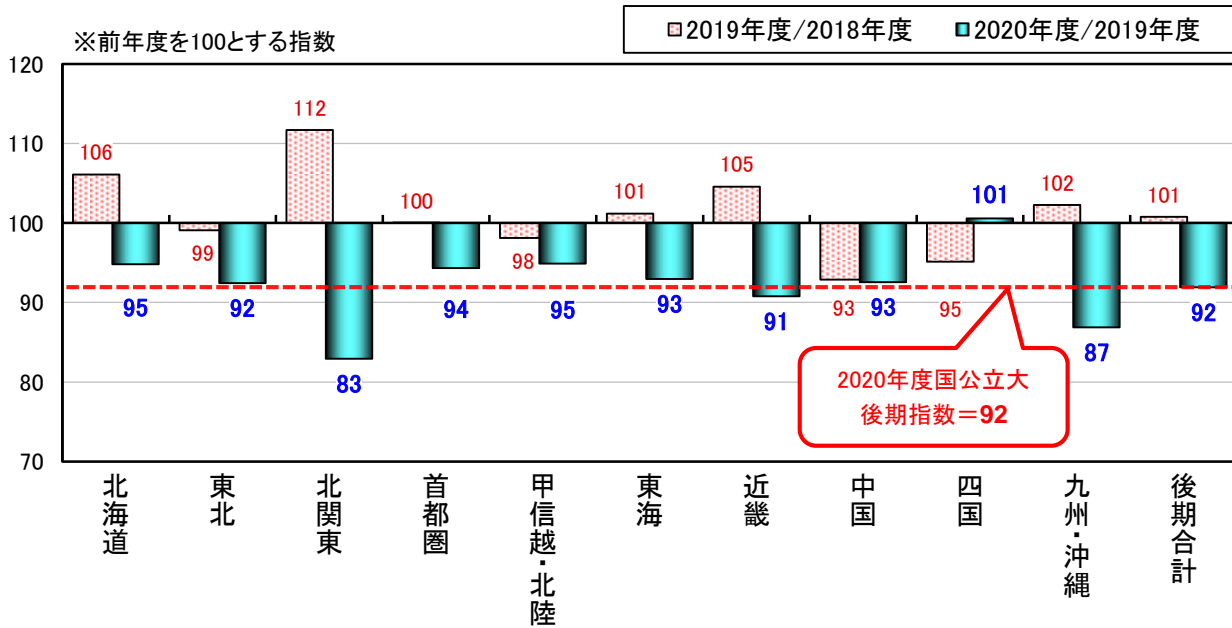
2020 年度入試状況分析【国公立大】

前期内で2番目の増加数だった。一方で、信州大(-763人)は、前期内で最も大きな減少数だった。富山大(-419人)、富山県立大(-418人)、山梨大(-376人)、金沢大(-266人)も減少数が大きかった。また指数では、公立諏訪東京理科大(254)、上越教育大(145)などが大幅増加。一方で、富山県立大(67)、山梨大(75)、信州大(82)などは大幅減少。

- 東海(93)…………… 14 大学中 10 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、静岡大(-339人)、名古屋大(-314人)の減少数が大きかった。また指数では、浜松医科大(113)などが増加、名古屋工業大(106)はやや増加。一方で、静岡大(89)などは減少。名古屋大(93)などはやや減少。
- 近畿(91)…………… 25 大学全てが減少。志願者数では、滋賀大(-490人)、兵庫県立大(-424人)、神戸大(-364人)、大阪府立大(-333人)、大阪市立大(-297人)、和歌山県立医科大(-237人)、大阪教育大(-228人)、滋賀医科大(-206人)、京都工芸繊維大(-203人)の減少数が大きかった。また指数では、和歌山県立医科大(52)、滋賀医科大(62)、滋賀大(73)、兵庫県立大(80)、大阪府立大(85)などは大幅減少。大阪市立大(92)などは減少。
- 中国(96)…………… 16 大学中 10 大学が減少。志願者数では、島根県立大(+977人)の増加数が目立ち、前期内で最も大きな増加数だった。島根大(+279人)、山陽小野田市立山口東京理科大(+272人)も増加数が大きかった。一方で、山口大(-586人)の減少数が目立ち、前期内で2番目の減少数だった。これ以外に鳥取大(-560人)、広島大(-479人)、県立広島大(-336人)、公立鳥取環境大(-270人)、尾道市立大(-215人)の減少数が大きかった。また指数では、島根県立大(201)が倍増、山陽小野田市立山口東京理科大(143)、島根大(115)などは大幅増加。一方で、鳥取大(78)、山口大(84)などは大幅減少。
- 四国(103)…………… 9 大学のうち 6 大学が増加。志願者数では、徳島大(+309人)の増加数が大きかったが、減少数が目立った大学はなかった。また指数では、高知工科大(115)などが大幅増加。徳島大(114)などは増加。一方で、高知大(92)は減少。
- 九州・沖縄(92)… 23 大学のうち 19 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなかった。一方で、宮崎大(-519人)、北九州市立大(-439人)、鹿児島大(-380人)、九州工業大(-266人)、福岡県立大(-231人)、九州大(-225人)の減少数が大きかった。また指数では、九州歯科大(66)、宮崎大(74)、九州工業大(80)などは大幅減少。

2020 年度入試状況分析【国公立大】

<後期日程>



- 北海道(95)…………… 10 大学中 6 大学が減少。志願者数では、帯広畜産大(+270 人)の増加数が大きく、旭川医科大(-342 人)、北海道大(-220 人)は減少数が大きかった。また指数では、帯広畜産大(278)は倍以上の激増。一方で、旭川医科大(56)、小樽商科大(74)などは大幅減少。
- 東北(92)…………… 14 大学中 10 大学が減少。志願者数では、福島大(+368 人)の増加数が大きく、福島県立医科大(-542 人)、秋田大(-249 人)、岩手県立大(-215 人)の減少数が大きかった。また指数では、福島大(121)は大幅増加。一方で、岩手県立大(82)などは大幅減少。秋田大(87)、山形大(91)などは減少。
- 北関東(83)…………… 8 大学中 7 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、茨城大(-669 人)、群馬大(-638 人)、筑波大(-204 人)の減少数が大きかった。また指数では、群馬大(61)、宇都宮大(83)、茨城大(83)などが大幅減少。筑波大(87)は減少。
- 首都圏(94)…………… 16 大学中 13 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、横浜国立大(-430 人)、千葉大(-329 人)、東京学芸大(-227 人)の減少数が大きかった。また指数では、横浜市立大(228)はデータサイエンスのみ募集だが、倍以上の激増。一方で、東京学芸大(83)などが大幅減少。横浜国立大(92)、千葉大(92)などは減少。
- 甲信越・北陸(95)… 15 大学の中 9 大学が減少。志願者数では、新潟大(+513 人)の増加数が大きく、一方で富山大(-706 人)は後期内で 2 番目の減少数だった。山梨大(-425 人)、信州大(-272 人)も減少数が大きかった。また指数では、新潟大(126)などが大幅増加。一方で、山梨大(82)、富山大(83)などは大幅減少。信州大(92)などは減少。
- 東海(93)…………… 13 大学中 10 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、岐阜大(-584 人)、名古屋市立大(-265 人)の減少数が大きかった。また指数では、名古屋市立大(82)、岐阜大(85)などは大幅減少。
- 近畿(91)…………… 21 大学中 19 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、滋賀大(-682 人)、和歌山大(-338 人)、神戸市外国語大(-314 人)、神戸大(-280 人)、兵庫県立大(-205 人)の減少数が大きかった。また指数では、神戸市外国語大(69)、滋賀大(79)などは大幅減少。和歌山大(86)、兵庫県立大(88)などは減少。

2020 年度入試状況分析【国公立大】

- 中国(93)…………… 14 大学中 8 大学が減少。志願者数では、島根県立大(+700 人)、島根大(+618 人)の増加数が目立ち、それぞれ後期内で 1・2 番の増加数だった。一方で、山口大(-978 人)は後期内で最も大きい減少数だった。これ以外に鳥取大(-683 人)、県立広島大(-501 人)、岡山大(-302 人)の減少数が大きかった。また指数では、島根県立大(313)は 3 倍以上の激増。島根大(138)なども大幅増加。一方で、県立広島大(62)、山口大(72)などは大幅減少。
- 四国(101)…………… 9 大学のうち 5 大学が減少。志願者数では、徳島大(+314 人)の増加数、愛媛大(-202 人)の減少数が大きかった。また指数では、徳島大(117)などは大幅増加。一方で、高知工科大(86)、愛媛大(92)は減少。
- 九州・沖縄(87)……… 21 大学のうち 18 大学が減少。志願者数では、佐賀大(+246 人)の増加数が大きく、宮崎大(-699 人)、大分大(-683 人)、北九州市立大(-535 人)、鹿児島大(-460 人)、琉球大(-311 人)、九州工業大(-267 人)、長崎大(-219 人)、福岡県立大(-208 人)の減少数が大きかった。また指数では、佐賀大(109)は増加。一方で、大分大(69)、宮崎大(77)、北九州市立大(78)など大幅減少。

<中期日程>

2019 年 4 月より公立大へ移管となった公立千歳科学技術大を除いた中期 20 大学中 11 大学が減少。志願者数では、公立諏訪東京理科大(+812 人)、下関市立大学(+344 人)、山陽小野田市立山口東京理科大(+269 人)の増加数が大きく、兵庫県立大(-431 人)、長野県立大(-417 人)、長野大(-340 人)、都留文科大(-327 人)、公立小松大(-278 人)、静岡県立大(-249 人)の減少数が大きかった。また指数では、公立諏訪東京理科大(188)は激増、山陽小野田市立山口東京理科大(115)などは大幅増加。一方で、長野県立大(53)、長野大(72)、公立小松大(75)、静岡県立大(75)などは大幅減少。

<独自日程>

国際教養大(86)は前年度大幅増加の反動で減少。新潟県立大(99)は微減だが、新設の国際経済を除くと(74)の大幅減少。

次に、地区別に増減数が 150 人以上かつ増減率が 15%以上の大学をまとめました。

○北海道

前期	増加	室蘭工業大	+393 人	理工(149)は改組 2 年目で、大幅増加。(システム理化学)(209)は倍増以上。
		釧路公立大	+270 人	2016 年度から前年度の反動による増減の継続で大幅増加。志願者数が 600 人を超えるのは 2007 年度ぶり。
後期	増加	帯広畜産大	+270 人	3 年ぶりに増加。2 学科とも激増。
	減少	旭川医科大	-342 人	医(医)(48)は募集人員減少のためほぼ半減。

○東北

前期	減少	岩手県立大	-280 人	ソフトウェア(33)は激減、社会福祉(81)も大幅減少。
		福島県立医科大	-205 人	医(医)(59)は第 1 段階選抜基準が厳しくなったことから大幅減少。募集人員増加により志願倍率は 6.8 倍→3.3 倍にダウン。
後期	増加	福島大	+368 人	開設 2 年目の農(62)は大幅減少、理工(96)はやや減少だが、人文社会(150)の大幅増加が影響。
	減少	福島県立医科大	-542 人	医(医)が募集停止のため激減。医(看護)(86)だけでは 23 人の減少。
		岩手県立大	-215 人	ソフトウェア(71)、総合政策(75)の大幅減少が影響。

2020 年度入試状況分析【国公立大】

○北関東

前期	減少	群馬県立女子大	-154 人	3年ぶりに減少。文(71)は大幅減少、国際コミュニケーション(98)は微減。
後期	減少	茨城大	-669 人	3年ぶりに減少。工(65)、人文社会科学(79)が大幅減少、理(95)はやや減少。
		群馬大	-638 人	社会情報(123)を除く3学部で大幅減少。特に、宇都宮大と合同で共同教育を設置し、募集人員を減少したため、前年度の教育と比較すると共同教育(42)の大幅減少が目立った。

○首都圏

前期	減少	横浜市立大	-540 人	2年連続減少。学部改組2年目の国際教養(73)、国際商(84)は大幅減少、理(90)は減少。その他の医(72)、データサイエンス(85)は大幅減少。
後期	減少	東京学芸大	-227 人	大幅減少。課程(類)別では、(養護)(325)、(特別支援)(120)を除き減少。特に、(中等)(60)、(初等)(79)は大幅減少。

○甲信越・北陸

前期	増加	公立諏訪東京理科大	+689 人	公立化2年目で認知度が上がり激増。学科別では、特に(機械電気工)(350)が3.5倍の激増。
	減少	信州大	-763 人	大幅減少。医(医)(60)は募集人員減少もあり、大幅減少。農(73)は2年連続減少、繊維(88)は3年連続減少。
		富山県立大	-418 人	3年ぶりに減少。工(81)は2年連続大幅減少。開設2年目の看護(38)は激減で志願倍率も6.7倍→2.6倍にダウン。
		山梨大	-376 人	3年ぶりに減少。全学部で大幅減少。
		山梨県立大	-163 人	人間福祉(106)はやや増加で2年連続増加。その他の2学部は減少で、国際政策(45)は半減以下だった。
		長野大	-151 人	公立化3年目で大幅減少。社会福祉(37)が激減で、その他の2学部は増加。
後期	増加	新潟大	+513 人	3年ぶりに増加。農(263)は5年ぶりに増加で2.5倍以上の激増。理(230)は3年ぶりに増加で激増。工(196)は3年ぶりに増加でほぼ倍増。医(保健)(166)は4年ぶりに大幅増加。
	減少	富山大	-706 人	3年ぶりに減少。都市デザイン(113)を除く8学部で減少。特に、工(57)の大幅減少が目立った。
		山梨大	-425 人	工(119)以外は全て減少。特に、生命環境(58)の大幅減少が目立った。
中期	増加	公立諏訪東京理科大	+812 人	公立化2年目で認知度が上がり大幅増加。特に、(機械電気工)(243)は倍以上の激増。
	減少	長野県立大	-417 人	公立化3年目で大幅減少。2学部とも大幅減少で、グローバルマネジメント(50)、健康発達(59)の大幅減少。
		長野大	-340 人	公立化3年目で大幅減少。企業情報(66)、環境ツーリズム(68)、社会福祉(80)の大幅減少が影響。
		公立小松大	-278 人	公立化3年目で大幅減少。全学部減少で、国際文化交流(65)、保健医療(77)は大幅減少。

○東海

後期	減少	名古屋市立大	-265 人	総合生命理(125)を除く3学部が減少。人文社会(69)の大幅減少が目立った。
中期	減少	静岡県立大	-249 人	系統の人気低下で薬(薬)(64)は大幅減少。

○近畿

前期	減少	滋賀大	-490 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。全学部で大幅減少。
		兵庫県立大	-424 人	社会情報科学(101)を除く4学部が大幅減少。環境人間(67)の大幅減少が目立った。
		大阪府立大	-333 人	現代システム(71)、地域保健(76)の大幅減少が影響し、3年ぶりに減少。
		和歌山県立医科大学	-237 人	2学部とも大幅減少。医(医)(44)は前年度の反動による増減が継続。
		大阪教育大	-228 人	教育(教育協働)(75)の大幅減少が影響し、2年ぶりに減少
		滋賀医科大	-206 人	2学科とも減少。医(医)(56)は大幅減少で5年連続減少。
		京都工芸繊維大	-203 人	大幅減少し、3年連続減少。
後期	増加	奈良県立医科大学	+172 人	医(医)のみの募集だが、大幅増加で3年ぶりに増加。
	減少	滋賀大	-682 人	3学部全てが前年度大幅増加の反動で大幅減少。
		神戸市外国語大	-314 人	外国語(イスパニア)(112)を除くその他の学科はいずれも大幅減少。

2020 年度入試状況分析【国公立大】

○中国

前期	増加	島根県立大	+977 人	全学科・方式で大幅増加し、前年度大幅減少の反動もありほぼ倍増。
		山陽小野田市立山口東京理科大	+272 人	学科別では、(機械工)〈B方式〉(98)を除く 5 方式が大幅増加。
	減少	山口大	-586 人	9 学部のうち 6 学部が減少。特に、工(67)の大幅減少が目立った。
		鳥取大	-560 人	4 学部全てが減少。医(保健)(48)、工(76)の大幅減少が影響。
		県立広島大	-336 人	改組により募集人員がそれぞれ減少した生物資源科学(50)、地域創生(60)の影響で大幅減少。志願者数は 3 年ぶりに 1,000 人を下回った。
		公立鳥取環境大	-270 人	環境(60)、経営(77)はいずれも大幅減少。経営は 2 年連続大幅減少。
尾道市立大	-215 人	2 年ぶりに減少。経済情報(52)はほぼ半減だが、芸術文化(134)は大幅増加と対照的。		
後期	増加	島根県立大	+700 人	2 学部とも 3 倍以上の激増。人間文化(320)は 2 年連続大幅増加。総合政策(308)は前年度の反動による増減が継続。
		島根大	+618 人	総合理工(208)、教育(203)の激増が目立った。
	減少	山口大	-978 人	全学部で減少。共同獣医(87)を除くその他の学部はいずれも大幅減少。
		鳥取大	-683 人	全学部で減少し、2 年連続減少。廃止の医(医)を除いても(83)の大幅減少。志願者数は 2,000 人を下回った。
		県立広島大	-501 人	改組により募集人員が減少した地域創生(35)、生物資源科学(63)はいずれも大幅減少。保健福祉(100)は前年度並だが募集人員減少で志願倍率は 10.0 倍→13.1 倍にアップ。
岡山大	-302 人	3 年連続減少。環境理工(144)、法(114)を除くその他の学部はいずれも減少。		
中期	増加	山陽小野田市立山口東京理科大	+269 人	2 学部とも増加し、2 年ぶりに増加。工(134)は 3 学科全てで大幅増加。

○四国

前期	増加	高知工科大	+164 人	3 年ぶりに増加。システム(150)の大幅増加が影響。
後期	増加	徳島大	+314 人	専攻・コース別では総合科学(社会総合科学)(88)を除くその他の専攻・コースはいずれも増加。
		高知県立大	+153 人	2 年連続増加し、志願倍率も 17.6 倍→24.9 倍にアップ。文化(179)、看護(151)の大幅増加が影響。

○九州・沖縄

前期	減少	宮崎大	-519 人	教育(128)を除く 4 学部が減少し、4 年ぶりに減少。農(48)、医(医)(53)のほぼ半減が影響。
		九州工業大	-266 人	3 年ぶりに減少。情報工(72)、工(89)と 2 学部とも減少。
		福岡県立大	-231 人	人間社会(56)の大幅減少が影響。6 年ぶりに志願者数が 500 人を下回った。
後期	減少	宮崎大	-699 人	5 学部全てが減少し、前年度の反動による増減が継続。
		大分大	-683 人	2 年ぶりに減少。全学部で減少し、福祉健康科学(92)を除く 4 学部が大幅減少。
		北九州市立大	-535 人	文(107)を除く 4 学部が大幅減少。特に、外国語(57)、経済(58)が影響。
		鹿児島大	-460 人	水産(107)を除くその他の学部が減少。医(保健)(44)は大幅減少だが、廃止の医(保健/看護)を除くと(183)の激増。
		九州工業大	-267 人	2 学部とも大幅減少で 2 年連続減少。
		福岡県立大	-208 人	全学科で大幅減少。志願倍率は 16.1 倍→10.9 倍にダウン。
宮崎公立大	-175 人	人文(63)のみの募集だが、大幅減少で 3 年ぶりに減少。志願者数は 300 人を下回った。		